

大学とともに創る地域の未来 キックオフフォーラム ～地方創生・日南町モデルの共創～

次 第

日 時：令和7年2月21日（金）13：00～17：00
場 所：日南町役場「交流ホール」

1 開 会（13：00）

主催者挨拶 日南町副町長 角井 学
鳥取大学 地域価値創造研究教育機構 副機構長・教授 清水 克彦
趣旨説明 鳥取県県政顧問 瀧田 佐登子（WebDINO Japan 代表理事）

2 第一部 連携大学による取組事例報告（13：15～）

- ・慶應義塾大学 環境情報学部 高汐 一紀 教授、塩谷さん、島田さん
「医療・介護の現場におけるロボティクスの活用と実証」
- ・明治大学 農学部 片野 洋平 准教授、学生（※オンライン）
「ふるさと納税を活用した地域活性化
～日南町の特産品を利用した商品開発の流れ～」
- ・大阪公立大学 商学部 太田 雅晴 教授（※オンライン）
「地方創生への取組によって大学生・日南町がWinWinになるために」
- ・鳥取大学 地価値放送研究教育機構 清水 克彦 教授
「日南町・鳥取大学連携のあゆみ」
農学部 木原 奈穂子 講師、芥川さん・宮脇さん、本城さん
「日南町との連携事業をととした地域人材の育成」

3 第二部 パネルディスカッション（15：00～）

テーマ「Nichinan University HUB 構想～地方創生・日南町モデルの共創～」

パネリスト

- ・鳥取大学 清水 克彦 教授（地域価値創造研究教育機構 副機構長）
- ・慶應義塾大学 高汐 一紀 教授（政策・メディア研究科委員長/環境情報学部）
- ・東京大学 笥 康明 教授（大学院情報学環・学際情報学府）
- ・鳥取県 とっとり暮らし推進局協働参画課 足立 多恵子 課長
- ・日南町民代表 矢田 治美 さん
- ・日南町 角井 学 副町長

モデレーター

- ・鳥取県県政顧問 瀧田 佐登子（WebDINO Japan 代表理事）

4 閉 会（16：30）

5 交流会（17：00～）

地域における学びの拠点を創出する

大学とともに創る地域の未来キックオフフォーラム

～地方創生・日南町モデルの共創～



日南町を拠点（HUB）とした、大学連携の新しいカタチを考える

「日本の30年後の姿」といわれる日南町には、現在様々な大学が関わりを持ち、まちをフィールドとした実証や社会実装の取り組みを行なっています。地域の課題やまちづくりのこれからを考える、そして大学連携の新しいカタチを町民の皆さまとともに考えるフォーラムを開催しますので、ぜひご参加ください。

日時 2025年2月21日（金）13：00～16：30

場所 日南町役場「交流ホール」

内容 （第一部）連携大学による取組事例報告

鳥取大学、明治大学、慶應義塾大学、大阪公立大学（※順不同）

（第二部）「Nichinan University HUB構想

～地方創生・日南町モデルの共創～」

鳥取大学 地域価値創造研究教育機構 清水 克彦 教授

慶應義塾大学 環境情報学部 高汐 一紀 教授

東京大学 学際情報学府 笥 康明 教授

日南町民代表 矢田 治美 さん

日南町役場 角井 学 副町長 ほか

（モデレーター）鳥取県県政顧問 瀧田 佐登子 WebDINO Japan 代表理事

参加無料・事前申込は不要ですので、直接会場へお越しください。

お問い合わせ先 日南町役場まち未来創造課

〔電話〕0859-82-1110 〔メール〕s0180@town.nichinan.lg.jp

令和6年度 鳥取大学一日南町連携事業実績報告

鳥取大学一日南町連携事業ワーキンググループ会議・連携事業報告会

第1回：令和6年8月26日（鳥取大学にて開催）

鳥取大学・日南町連携事業報告会：令和7年2月21日（大学とともに創る地域の未来 キックオフフォーラム～地方創生・日南町モデルの共創～と同時に開催）

第2回：令和7年3月27日（日南町にて開催）

【教育・文化】

①自治組織の連携と地域団体の維持を目的とした地域おこし協力隊の推進（継続）

（農学部 講師 木原奈穂子 / 地域づくり推進課）

【実績報告】

- ・大学生・大学院生等が、学校に通いながら地域活動を行い、日南町を研究のフィールドとして地域の課題解決に挑戦する「半学半域型地域おこし協力隊」の採用を開始。今年度採用した鳥取大学大学院の2名の学生が、現在隊員として活動している。
- ・今年度は、移住・交流相談や地域おこし協力隊募集を行うイベント「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア」に初出展し、半学半域型地域おこし協力隊もブース対応で参加した。学生を地域おこし協力隊として受け入れる本町の取組は同イベント内でも反響があり、今後もその取組を継続・強化していきたい。
- ・隊員等の活動拠点として活用できる施設については、整備に向けての具体的な活動を行うことができなかった。
- ・活動成果をより効果的に町の課題解決に生かしていくため、隊員同士の連携を強化し、個々の活動をつなぎ広げていく必要があると感じた。

<参考>令和6年度の採用状況（鳥取大学関係のみ）>

種 別	年数	氏 名	学 年	活動支援団体
チャレンジ起業 地域おこし協力隊	3年目	田中 里奈	農学部卒業生	（一社）TARI
半学半域型 地域おこし協力隊	1年目	芥川 実桜	農学専攻 修士1年	（一社）TARI
	1年目	宮脇 里歩	農学専攻 修士1年	（一社）TARI
インターン型 地域おこし協力隊	—	本城 ひより	農学部4年	（一社）笠木営農組合

【令和7年度事業計画】

- ・既存の地域おこし協力隊を継続・強化し、学生の受入を積極的に行っていく。
- ・隊員等の活動拠点施設整備のため、町内で活用可能な既存施設の洗い出しを行うとともに、どのような施設が適しているか、隊員や学生への聞き取り等を行う。
- ・隊員と活動支援団体・地域等をつなぐ支援や助言を行うコーディネーターの設置を検討する。
- ・隊員同士が相互に刺激を与えあい、町の課題解決のため協力して活動できるよう、座談会や連絡会等を実施して隊員同士の連携に努める。

②出前科学実験教室（継続）

地域実践教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）

（技術部 統括技術長 三谷秀明 / 教育委員会）

【実績報告】

令和6年度も例年通り「にちなんふる里まつり」の開催に併せ、11月3日（日）10:00～15:00の間、鳥取大学より講師を招き役場庁舎交流ホールにて開講した。

本年度は科学実験・観察・ものづくりの9講座を開講し、来場者の各年齢層に合わせた展示を行った。個人から親子連れまで多くの来場があり、受付を行った総来場者数は過去最高の128名を数えた。受付無しの来場者も見られたため、実際にはさらに数値は増加するものと思われる。来場者それぞれが興味のある展示コーナーで楽しく時間を過ごすことが出来た。

アンケート調査では、前年度の様子から今年度の来場者数を100名程度と見込みアンケート用紙を準備したため、不足する事態となり未調査の数が多かった。アンケートの回答については準備数102名、回答数96名であった。そのため以下は参考となるが、最も注目すべき項目であるリピーターの数を確認したところ、2回目が24名、3回目が11名、4回目が6名、5回目と6回目が1名であり半数には至らなかったものの、イベントの開催回数が増えるごとに本数値は増加している。次年度の開催を期待する回答が91名であったことと併せると本イベントの開催意義が大きいことが伺える。中でも幼少期の子供をもつ保護者の期待は大きいようであった。

また、来場者からの貴重な意見としてアンケートからではなく直接講師宛に、イベントの開催自体、庁舎内に入らなければわからなかったことから、特に町外からの来場者への開催の周知方法を検討する必要があるといったものがあつた。

次年度以後も上記を踏まえ本イベントを継続する予定であるが、鳥取大学からの要望もあり、開催方法の在り方を今後、時間をかけて検討していく必要があると思われる。



③国際理解講座（継続）

地域実践教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）

（国際交流センター 教授 御館久里恵 / 日南町図書館）

【事業内容】

子どもたちが鳥取大学に通う世界各国からの留学生と交流することにより、他国への関心を高め、海外を身近に感じることができる機会とする。生活や文化などを紹介した図書を通じてその国の理解を深める。

国ごとにブースを用意し、留学生が母国の紹介や絵本の読み聞かせなどを行う。子どもたちは少人数グループで順番にテーブルを回り、留学生との会話や各国の遊びを通してその国の文化に触れる。

【実績報告】

今年度は、日程の調整がつかず中止となった。

来年度は、日程調整等を早めに行い、開催への準備を万全に進めたい。

④とっとり暮らし早期体験学習（継続）：地域実践型教育活動（地域連携授業）

（地域価値創造研究教育機構 教授 清水克彦 / まち未来創造課）

【令和6年度事業計画】

- ・鳥取大学と連携協定を締結している各町をフィールドに、実際に現地に赴き、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につける講義を行う。

<日南町での実施結果>

R6年5月23日：日南町の概要についての講義

6月2日：体験学習（参加者：9名）

- ・にちなん中国山地林業アカデミーで、農林業の学習や枝打ち体験を実施。
- ・昼食時には、半学半域型地域おこし協力隊2名と、食事をしながら意見交換を行った。

※R7年度は6月1日に実施計画。



⑤生き抜く力育成事業「サマースクール 2024」（新規）

（地域価値創造研究教育機構 地域連携推進室地域連携コーディネーター本庄和志／教育委員会）

【実績報告】

町内の小学生を対象とした町外宿泊学習事業「サマースクール」において初の試みとして、鳥取大学への宿泊研修を実施した。日南町からは6年生4名、鳥大側からは地域学部人間形成コース2年生が4名参加した。1時間×3回の自主学習時間を設け、大学生の見守りの中集中して取り組む姿が見られた。

また、広いキャンパスの見学、学食体験、湖山クラブでの宿泊等を通し大学生生活のイメージを持ち、家庭や学校とは違う環境の中で自主的に過ごす体験ができた。

【今後に向けて】

今年度同様、小学生高学年10名程度、大学生5名程度の参加を想定し、自主学習時間、湖山クラブでの宿泊体験を来年度も実施したい。加えて、ふる里まつり等で毎年行っている「出前科学実験教室」のような、大学生主体の活動体験等も検討していきたい。



【暮らし】

⑥食防災（一般防災含む）に関する啓発の実践（継続）

（医学部 講師 上田悦子 ／ 総務課 ／ 地域づくり推進課）

【実績報告】

- ・令和5年度に制作した内容を再放送。放送スケジュールも例年通りとした。

＜再放送実績＞

放送月	タイトル
R6.5月	持続可能な備蓄を！ ローリングストックのススメ
R6.6月	わが家の避難スイッチは…？
R6.7月	今すぐできる減災（台風・豪雨対策編）
R6.8月	今すぐできる減災（地域で備える編）
R6.9月	今すぐできる減災（地震対策編）
R6.10月	災害食の選び方
R6.11月	災害食の選び方（2）
R6.12月	今すぐできる減災（冬の防災編）
R7.1月	今すぐできる減災（火災予防編）
R7.2月	トイレの備蓄が命を守る
R7.3月	備えない防災「フェーズフリー」

【令和7年度に向けて】

- ・この事業について、令和5年度でいったんは完了し再放送を行っている段階であるが、R7年度に向けて、継続するか新たな事業を開始するかの検討も必要かと考える。

⑦上下水道料金の見直し（新規）

（工学部 准教授 高部祐剛 ／ 建設課）

【実績報告】

第1回審議会 R6.9.18 日南町役場第2会議室

委員委嘱、役員選出 会長：高部祐剛委員 副会長：江澤欣夫委員

諮問：将来にわたり安定的な上下水道事業の運営を図るため上下水道料金のあり方等について

議題：日南町上下水道事業の概要と課題（現状説明）

第2回審議会 R6.12.28 日南町役場防災会議室

議題 1. 水道料金改定の実施について

○料金改定は実施する。 ○消火栓維持管理分として一般会計から繰入する。

2. 水道料金算定期間について

○5年間とする。

3. 水道料金改定案について

○直近の改定率の事例を踏まえ継続審議とする。

第3回審議会 R7.2.26 日南町役場第2会議室

議題 1. 水道料金改定について

○料金改定率 1.15倍とし不足額は、消火栓維持管理分として一般会計繰入金とする。

料金改定率 1.15倍で料金試算し継続審議

【3者協定に基づく連携事業】

中山間地域の課題解決に関する連携協定（継続）：その他連携事業

（鳥取大学 / 日南町 / ソフトバンク）

＜中山間地域の課題解決に関する連携協定についての提案＞

- 本協定は、ICT利活用をベースに中山間地域の課題解決を行い、SDGsの各項目を協働で推進することで、持続可能な中山間地域のモデルケースを創造し、暮らしやすいまちづくりの実現に資することを目的に、令和2年8月21日に締結。
- 4プロジェクトのうち3プロジェクトは事業完了し、現在に残る1プロジェクトを推進中。

⑧日南町ショートタイムワーク（継続）

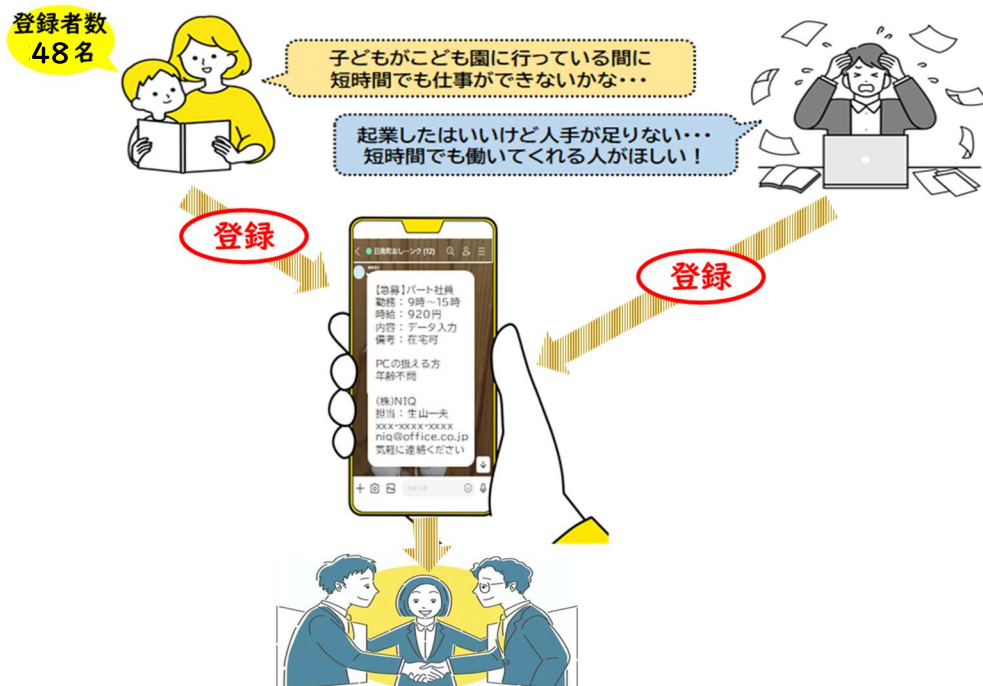
（農学部 講師 木原奈穂子 / 地域づくり推進課 / ソフトバンク）

【実績報告】

- ・LINE オープンチャットによる求人情報の提供を開始し、運営を継続している。
- ・広報にちなんに特集ページを掲載し町民の認知度向上に努めた結果、オープンチャット参加メンバーが前年度末と比較し+250%となった。

【課題と展望】

昨年度と比較し、オープンチャット加入者が増えたものの、安定して情報交換を成立させるためにはまだまだ多くのユーザー数が必要である。事業者、求職者それぞれに合わせより効果的なアプローチ方法を今後も引き続き検討していく。



大学とともに創る地域の未来キックオフフォーラム
～地方創生・日南町モデルの共創～
2025年2月21日（金）13:00～16:30
日南町役場「交流ホール」

連携大学による取組事例報告

日南町・鳥取大学 連携事業 20年



鳥取大学 地域価値創造研究教育機構
清水 克彦

日南町・鳥取大学 連携事業 20年のあゆみ

【平成16年度】

- H17.2.8 矢田日南町長、内田課長 鳥大訪問
H17.3.23-24 岩崎理事外日南町訪問（情報交換会、にちなん環境林視察）

【平成17年度】

- H17.4.21 本名農学部長、日置教授外日南町訪問、視察（県庁林政課同行）
H18.2.21 矢田日南町長、内田課長来学 学長、岩崎理事、林監事外訪問
H18.2.28-3.1 岩崎理事、林監事外 日南町訪問（意見交換会、町内小学校等視察、**協定の調印式**）

【平成18年度】

- H18.4.20 第1回ワーキンググループ会議（年2～3回、毎年実施）
H18.7.7 地域活性化教育研究センター開所式及び記念講演会（能勢学長講演）
H19.3.25 鳥取大学・日南町連携事業成果報告会（日南町役場交流ホールにて、以降毎年実施）

【平成19年度】

- H19.4.1 鳥取大学社会貢献推進課における日南町職員の派遣研修（手嶋主事、以降継続）
H19.10 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室（以降毎年実施）



【平成21年度】

- H21.9. 9-11 明治大学「M-Naviプログラム」による日南町訪問
H21.9.16 「日野郡フィールド実践による地域づくりセミナー」過疎プロジェクト報告会開催
H22.2.18-19 明治大学菊地ゼミによる日南町訪問・意見交換

【平成22年度】

- H22.9. 9 日南町議会による鳥大視察、研修会
H22.11.24 日南町議会・教育委員会合同研修会
H23.2. 1 明大・鳥大合同セミナー「日南町地域活性化への提言」

【平成23年度】

- H23.5. 6 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」（～H28まで開催）

【平成24年度】

- H24.8.20 インターンシップ受入（～8.31のうち10日間）

【平成25年度】

- H25.10. 2 日南町森林活用プロジェクト会議の立ち上げ
H25.11.12 四町（日南、南部、大山、琴浦）連携合同企画鳥取大学連携シンポジウム開催（琴浦町にて）

【平成26年度】

- H26. 6. 1 鳥取大学知（地）の拠点整備事業シンポジウムを開催（増原町長出席）

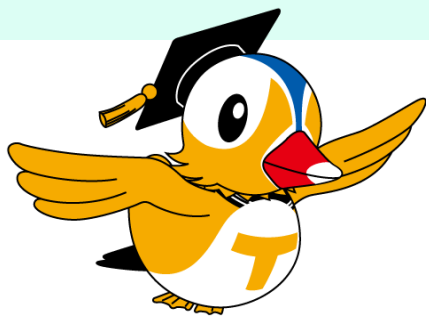


【平成27年度】

- H27. 5. 9 「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
- H27. 7. 1 地域学部「地域学入門」にて、古川派遣職員が鳥大と日南町の連携について説明
- H27. 7.15 とりりん・オッサンショウオ木製パネルの鳥大への贈呈式（鳥取大学広報センター）
- H27. 7.15 「公共政策論I」にて、増原町長が『「創造的過疎」のまちづくり』と題して講義
- H27. 7.30 放置財研究会が発足
- H27. 8.20 子ども支援連絡会議を開催（計3回開催）
- H27. 9. 5 日南町まちづくり大会～まち（むら）づくり協議会10周年＆鳥取大学×日南町連携協定10周年
記念事業～（日南町総合文化センターさつきホールにて）
- H27. 10.10 鳥取大学風紋祭に炊き込みご飯を出展（5町連携事業）
- H27. 12.11 地域貢献支援事業「コミュニティ力向上に向けたワークショップスキームの開発」大宮で現地
報告会を開催
- H27. 2.29 WG会議が平成27年度鳥取大学長表彰「社会貢献賞」を受賞

【平成28年度】

- H28. 11. 5 秋の図書館祭りに併せ「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて、以降継続）



【平成29年度】

- H29. 8. 5 日野川水系における水質調査報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- H29. 9.15 地方創生政策体験学習を実施（9.15～17までの3日間、日南町地内にて、～R5）
- H29. 12. 9 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井准教授との連携）

【令和元（平成31）年度】

- R1. 7. 1 日通共生の森10周年記念事業生態系調査（7/8,13、8/22、9/17、10/25）
- R1. 10. 6町制60周年記念式典アトラクションコーナーにて、鳥取大学ジャズ＆フュージョン研究会が演奏
- R1. 10.20 にちなん日和2019にて、鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルが演奏
〈中止〉連携事業成果報告会

【令和2年度】

- R2. 4. 1 日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の調査（日南町福万来地内にて）
- R2. 8.21 中山間地域における課題解決及びSDGs推進に関する連携協定
- R2 日南町ショートタイムワークプロジェクト

【令和3年度】

- R3. 4. 1 鳥取県の孤立の可能性ある集落における地域防災力向上のための支援プログラムの構築



【令和3年度】

R3. 4. 1 鳥取県の孤立の可能性ある集落における地域防災力向上のための支援プログラムの構築

【令和4年度】

R4. 4. 1 200年の森樹木調査事業（日南町阿毘縁地内にて）

R4. 4. 1 広報の折込チラシを活用した食防災（一般防災含む）に関する啓発の実践

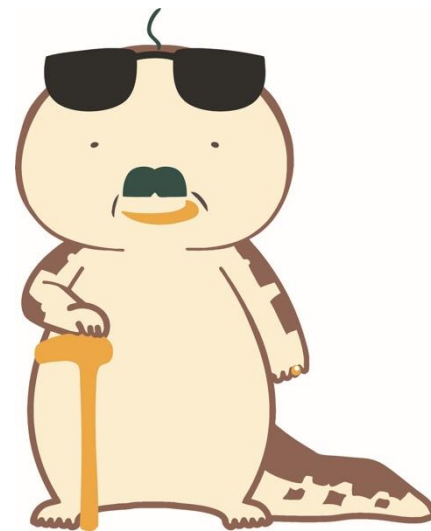
【令和5年度】

R5. 4. 1 自治組織の連携と地域団体の維持を目的とした地域おこし協力隊の推進

【令和6年度】

R6. 4. 1 持続可能な上下水道体系の在り方検討

R6.8.22 生き抜く力育成事業「サマースクール2024」



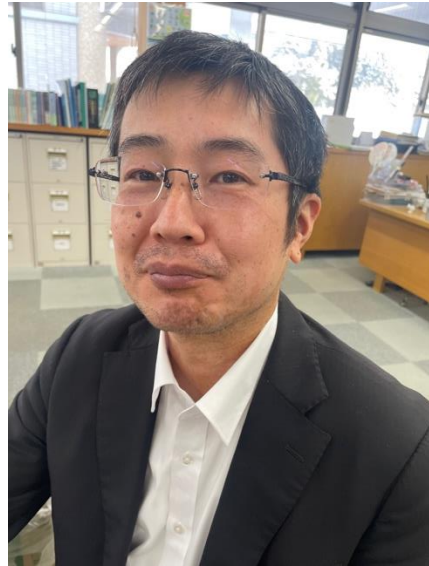
派遣職員のみなさん

手嶋 孝夫

教育委員会事務局

鳥取大学派遣研修 平成19年度

当時の能勢学長、林理事をはじめ、多くのみなさんに変にお世話になったことは今でも忘れません。役場にいるだけでは経験できないような色々な経験をさせていただきましたこと大変感謝しています。鳥取大学と日南町の関係がこれから増々発展することを願っています。



高橋 裕次

農業委員会事務局

鳥取大学派遣研修 平成20年度

派遣職員2代目として1年間お世話になりました。良き指導者や先輩、同僚に恵まれ大変感謝しています。振り返ってみると、交流の場（飲み会）が多かったな～（笑）



荒金 太郎

まち未来創造課
鳥取大学派遣研修 平成21-22年度

鬼の林から、仏の林へ。

（まだ亡くなってませんが）
今の自分があるのは林先生のおかげ
だと思っています。地方公務員とし
ての気構えを教えていただいたこと、
そして今の（まだ初婚ですが）嫁さ
んとの出会いをいただいた鳥取大学
に感謝感謝です。



石倉 嘉寛

総務課
鳥取大学派遣研修 平成23-24年度

日南町のお米はやっぱり美味しくて、
すっかり太ってしまい大学方面に行
く足が遠のいているこの頃、当時の
事を懐かしく思っています。
先生方をはじめ、職員の皆さまや多
くの方に助けていただいたおかげで、
たくさんの事業に取り組むことがで
きました。本当にありがとうございました。



川上 将典

まち未来創造課

鳥取大学派遣研修 平成25-26年度

H25～26の2年間、週3回鳥大に通わせていただいた経験が今の私の土台となっています。

当時、大学と協定のあった日南、南部、大山、琴浦に鳥取県を加えて実施した4町連携事業は、それぞれが地元コミュニティや事業所を走り回り、大学の知を活かして取り組む、まさに産官学連携により地域課題の解決を目指す姿だったと思います。これからもよろしくお願いします。



古川 則仁

農林課

鳥取大学派遣研修 平成27年度

天野先生といつも食事をご一緒させていただき、とても楽しかったです！

古川モータースのオイル米をお裾分けしたことも懐かしいです。

山田さん、前川さんにご指導いただいたことも、今となっては良い思い出です！



佐伯 晋介（退職）

鳥取大学派遣研修 平成28-29年度

牧 恭平

建設課

鳥取大学派遣研修 平成30-31年度

学長が代わられたり、片野先生が転勤になられたり、増原町長が亡くなられたり、いろいろと転機が多い派遣期間中でしたが、他の自治体の職員さんとも仲良くさせていただき、思いで深い2年間でした^^ 嫁さんとも結婚したのがこの頃でした。



中嶋 玄大

農林課

鳥取大学派遣研修 令和2-4年度

日置先生、清水先生には本当によくしていただき、改めて感謝申し上げます。

自分自身、成長できた2年間でしたし、もっともっと積極的な動きができればと後悔もありますが、2年間学ばせていただいたことを、これからのまちづくりに生かしていきたいと思います！

写真は、コロナ禍でのお米の応援プロジェクトです！



沼田 瑞穂

地域づくり推進課

鳥取大学派遣研修 令和5年度

何もできずに・・・担当として申し訳なかったです。
鳥取大学の皆さんには、本当によくしていただき、
感謝感謝です！
風紋祭とても楽しく参加させていただきました！
今後もぜひ、かかわらせていただければ嬉しいです！



田中 美咲

まち未来創造課

鳥取大学派遣研修 令和6年度

仕事が遅くて申し訳ありません・・・。
庁外の方と交流する機会が少ないので、鳥大連携担
当は、職員にとっても貴重な機会だと思います。
来年も担当であれば、さらにさらに頑張ります！



鳥取暮らし早期体験学習（地（知）的好奇心育成のための早期体験学習）

H27 地（知）の拠点形成事業
（COC事業）採択
・地域志向科目を設定

【目的】

鳥取県内の日南町、大山町、
琴浦町、南部町、智頭町、八
頭町の6町をフィールドとし
て、実際に現地に赴き、体験
学習を実施し、地域の実情に
接することにより、各町の特
色ある自然や産業についての
教養を身につけるとともに、
地域を学ぶ動機付けを行うこ
とを目標とする。



鳥取暮らし早期体験学習 ～授業のようす～

事前学習



体験学習



報告会



振り返り



鳥取暮らし早期体験学習 ～報告会資料例～



日南町 データ

○人口・世帯数 (令和2年6月時点)
4,427人 (男2,081人 女2,346人)
1,988世帯

○高齢化率 (令和2年6月時点)
50.8%

○変遷
大正時代の合併で日野村、山上村、大宮村、阿毘緑村、多里村、福栄村、石見村の奥日野7か村となり、昭和30年に一部が合併、「日南町」と「高宮村」が生まれ、さらに5つの町村が合併し、現在に至る。



日南町 データ 事前学習

- ・公共交通、自宅までバスが迎えに来るという仕組みを11月～。誰がいつ乗ったかなどを調査
- ・日南町の面積の90%が森林
- ・鳥取県の面積の1/10を占める (鳥取市に次いで県内2位)
- ・森を使った循環型の社会を考えている
→森林教育にも力を入れる

日南町 現地調査 報告

◇調査日
2020/8/2(日)

◇訪問先
にちなん中国山地林業アカデミー (説明・質疑応答・昼食)
近くの山 (林業体験・説明・質疑応答)
町役場 (見学)
道の駅 (散策)

日南町 現地調査 報告

◆にちなん中国山地林業アカデミー

・木をせりて売ったり、売れない木は燃料や紙の原料にして木を消費出来る場面ではほとんど使っていない

・必要家畜の量
多 ← 松 ← 杉 ← 少

・山では赤松が主に見られ、海では黒松が主に見られる

・現場で考えるのではなく、国産で考えなければ鳥取の木は鳥取で使わないといけないということになり、現状として木材消費に困っている。この点で国に不満を抱えている。

・ICT林業は採算が合っていない

・森林が育ると、森林にすむ動植物も減る

・林業大賞校は18校あるが、指導する人が公務員で、林業経験者が少ないため林業従事者のスキルアップが望めない状況となっている。

・算数の授業で、木を持ち帰ってその体積を求めることで3次元の図形への親しみが湧き、少し進んだ勉強ができる

気づき・発見

日南町 現地調査 報告

◆近くの山

- ・チェーンソー使ってみて木は本当に立派で、がっしりしていると感じた
- ・森林を見た時に、土壌を見ると、手入れがされているかされていないかが分かることを学んだ
- ・杉の木のチップを貰って家で保管するためにインターネットで調べたが、どのサイトにもとても難しいと書いていて、林業はやはり大変であると感じた

気づき・発見

日南町 現地調査 報告

◆町役場 (見学)・道の駅 (散策)
道の駅のソフトクリームの値段が高い

SDGsとの連携をどうして傘で表したのか? (←疑問・未解決)

気づき・発見

日南町 SWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	S 強み → 伸ばす <ul style="list-style-type: none">・ヒメダカがある・豊かな森林がある・ICT化が進んでいる・県立森林教育が行われている・県立の山が山荘である・日本でも有数の林業が盛んな地域である・日本においてはハイレベルな林業を学ぶことが出来る・中国山地林業アカデミーがある・鳥取県の加勢木がある (鳥取市に次いで県内2位の面積)	W 弱み → カバー <ul style="list-style-type: none">・公共交通機関の不便さ・採算の合っていない森林事業が行われている・林業に関係を持つ人が少ない・手入れがされていない森林が多い・高齢化率90%を超え2人に1人は高齢者・人口減少、少子高齢化が進んでいる・公共交通機関が限られている→車必須
外部環境	O 機会 → 生かす <ul style="list-style-type: none">・SDGsの推進が全国的に行われている・ICTが進んでいる	T 脅威 → 回避 <ul style="list-style-type: none">・木材価格の暴落・林業従事者の減少が進む・森林への理解度の低下・外国産の安い木・予想外の大豪雪

日南町 SWOT分析 考察

ICTが進んでいる × 働き手不足

外国産の安い木 × 日南町の豊かな自然と日本でも有数の林地

W S

日南町 提案

ICTで都市と日南をつなぐ

可能性は∞

